

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月14日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3871100255		
法人名	有限会社トゥモロー		
事業所名	グループホーム 憩の郷		
所在地	松山市柳原720番地 (電話) 089-992-3337		
管理者	山内 栄樹		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価確定日	平成19年9月19日

### 【情報提供票より】 (19年6月14日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	14人

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円	
敷金	有 ( 円) 〇無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 〇無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり			円

#### (3) 利用者の概要 (6月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり (な)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり (な)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護経験豊かなホーム長が、職員と共に熱意をもって取り組んでいる。職員は地域密着型サービスを充実させるため、地域との関わりを大切に、地区の調整会との連携、近くの中学校の体験学習や大学の実習生の受け入れなど、地域との交流を大切にしている。同業者との交流を深め、地域密着型サービスの情報交換に努めている。近くにある協力医療機関とは24時間体制で安心できる連携体制をとっている。看取りに関しては入居時に本人・家族と医師が話し合いを持ち、同意があれば看取りのケアを医師と職員が連携しながら取り組む体制がある。利用者の好みや楽しみを大切に、近くの神社や海岸へ散歩に出かけたり、ホーム内では出番を設けて楽しんでいる。

### 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
職員は自己・外部評価共に詳細に目を通し、ケア会議などで個々の改善策について話し合い、利用者一人ひとりの状態に沿った具体的ケアの向上に努めている。ホーム長は評価の改善課題に対し、全職員に評価結果のコメントを知らせ、ホーム全体がケア向上に力を入れている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員は自己評価の意義を理解しており、全員が話し合いをもって評価を行い、日々のケア向上に繋げて行けるよう取り組んでいる。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議は2か月に1度開催し、防火訓練、感染症対策など、ホームの現状に関して具体的に話し合っている。話し合いの中で出た要望から、ホームの前に横断歩道を設置してもらうことができた。家族代表からの要望で、ホーム行事の前に家族の集いを開くようになり、多くの家族の出席があった。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族へは毎月「ホーム便り」を届け、利用者の生活の様子を伝え、運営推進会議には家族も出席してもらい、相談事項、要望事項などを聞き取り、具体的改善策に向けて取り組んでいる。苦情・意見箱を玄関に設け、家族・利用者からの声を伝えてもらっている。ホーム内と第三者機関の相談窓口を説明書に明記し、利用案内時に十分説明を行っている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
自治会に加入し、地区の調整会に月1度参加し、地域と常に連携をとっている。小学校、地区公民館の運動会に参加し、中学校2校の体験学習会、大学の実習生受け入れなどを行い、地域との関わりを深めている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 山内 栄樹

評価完了日 H.19 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念はある。ノーマライゼーションの考え方を踏まえて、地域の中でその人らしい暮らしができるように援助することを掲げている。 <hr/> (外部評価) 文章化した従来からの理念は変更していないが、地域密着型サービスとして地域との関係性を一層重視し、地域で安心した暮らしができるようなケアに努めている。		ともすればその理念を忘れがちであり、時々は“初心に帰る”事が大切であると思う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念の五か条を各フロアーの職員の目に付くところに貼っていて、常に頭にはあり、心掛けているものの出来ない時もある。 <hr/> (外部評価) 管理者と職員は、ユニット会などを通して理念に関して常に話し合いを持ちながら、小学校や地区公民館の運動会に参加するなど、地域での生活の中で交流を増やし、地域で安心した生活ができるよう努めている。	※	利用者主体であるべきことが、職員主体になりがちである。そのようなにならないよう、ミーティングなどで確認し合うようにしたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念をアピールする事はないが、スタッフと利用者のみなさんとの交流姿勢(会話する時の声のトーン・態度等)を見て感じていただくしかないと思う。	※	1、2階の各リビングに掲示している理念は文字が小さいので読みにくい。事業所が目指しているサービスのあり方を示した理念は、よく目につく所に読みやすく大きい文字で掲示しておくことを期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩途中で近所の人達と気軽な挨拶には努めているつもりである。近所の人と挨拶をしていると、畑の野菜をもらったりして利用者さんとの会話が弾む。	※	地域活動へ出る機会をもっと増やしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事には参加するよう努めているが、自治会・老人会までは参加していない。 <hr/> (外部評価) 自治会に加入し、地区の調整会に月1回出席し、情報交換を行っている。中学校2校の体験学習や大学の実習生も受け入れている。地方祭には御輿が入ってくれる。地域の寿司屋さんがホームに出張サービスに訪れ、利用者は楽しんでいる。	※	可能な限り地域行事には参加していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 利用者の皆さんの事で精一杯であり、地域の高齢者の事までは余裕がない。力不足を痛感している。		利用者の年齢も高くなり、身体状況も下降傾向の人が多くなってきてはいるが、その様な状況の中でも何が残されているかを探り前向きな対応をしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 事業所のより良いサービスの在り方を追及していく材料として考えてはいるが、具体的な改善に結びついていない。 <hr/> (外部評価) 職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、その評価を全員が確認し、十分話し合っけてケアの向上に努めている。	※	私たち職員に変化（変更）に対して無意識の内に抵抗感を抱いており、利用者の変化にも援助内容の変更にも鈍感である。もっと素直な気持ちで取り組んでいきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の詳しい内容までは知らないが、今年のお花見では家族の参加も何組もあり、運営推進会議でその様な意見があった事を後で知らされた。 <hr/> (外部評価) 会議は2か月に1回開催しており、防火訓練、感染症対策等ホームの現状などに関する議題を話し合っている。話し合いの中でホームの前に横断歩道が設けられた。家族会はないが、家族代表よりホーム行事の前に家族が話し合う機会を持つことの提案があり、敬老会の前にその機会が設けられた。	※	運営推進会議の内容が職員に伝わりやすい様に、初年度途中からではあったが、各ユニットの主任も会議のメンバーに加えている。  今後はさらに地域の情報を得、ホームへの理解・協力を深めるために、消防署、交番、近隣等からも参加してもらうことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が北条地区のサービス調整会に毎月参加し、必要な情報を流してくれているようであるが、私たち職員にその意識がない。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議には市から出席があり、また月1度開催される地区調整会には市、市社協からの出席もあり、常に連携をとり、ケアに活かしている。また地域包括支援センターによる勉強会にも参加し、協力を得られるように努めている。		毎月、北条地区では包括支援センターのリードによる調整会や勉強会があり、それに参加し、情報収集に努めている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が高齢者虐待・権利擁護事業等の資料を配布してくれた。職員が講習会へ行き、ミーティングで話し合った。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法の講演（県社協主催）を聴く機会があり、参加もした。そのようなことがないようミーティングをし、職員全体で注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明後にサービス開始に当たっての同意書もいただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当者を決め接する機会を多くし、話しやすい環境作りに努めている。管理者はそれぞれの入居者と個別に触れ合う機会を持ち、情報収集に努めている。		1対1では言い辛い面もあるだろうと判断して、玄関にご意見箱を設置している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月、請求書送付に合わせて近況報告・写真・レシートを付けた小遣い帳等を送付している。  (外部評価) 利用者それぞれの金銭出納帳があり、1～2万円程度預かっている。毎月請求書を送付する際に金銭出納帳、ホーム便り、写真等を同封して暮らしぶりを定期的に知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 今のところ不満や苦情はないが、御意見箱の設置をし、運営推進会議に家族代表者に入ってもらっている。担当スタッフを決め、お互いに相談しやすい雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 意見箱をホームの玄関に設置している。利用案内時にもホーム内での相談責任者、第三者機関の相談窓口を明示し、十分説明を行っている。また運営推進会議では家族の代表者も出席し、意見を述べている。		運営推進委員への家族代表者の員数を増やすか、または定期的に交替する等の方法にて、出来るだけ多くの家族さんに参加していただきたいと思っている。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 機会としては、夏のビアガーデン・冬の忘年会の2回設けている。その他、日頃から現場に入り、職員の意見を聞ける様に心掛けている。		今年は夏の機会があったときに、もっと気軽に出席できるように社用車を一台増やして欲しいとの要望があり、1ヶ月後に社用車を一台増やした。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 可能な範囲での調整はしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 可能な範囲で配慮している。  (外部評価) 馴染みの関係の大切さを職員間で十分認識しており、職員の意見を聞きながら、異動や離職を最小限にとどめるよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会を受けるように指導している。職員の研修希望をまず優先し、希望が出ない職員には強制的に行くよう勧めている。  (外部評価) 半年間の研修計画予定表を作成し、全職員に周知し、職員から参加希望を聞き取り、極力参加を勧めている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は地域のサービス調整会には積極的に参加し、情報交換等に努めている。職員はなかなかそういう機会がないので、相互訪問などのネットワークがもっと出来れば良いと思う。  (外部評価) 地区調整会の中に地域密着型部会が設立され、他のホーム・介護施設などの職員も出席しており、共に「サービスの質の向上」（平等と公平）等について学習し、ケアの向上に繋げている。	※	グループホーム連絡協議会などが主催している相互研修事業へ参加させ、サービス向上に努めたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年二回（夏はビアガーデン・冬は忘年会）の機会を設けている。出来るだけ現場の声を聴き、ストレスの原因を把握するように努めている。	※	親睦会は継続していく予定であるが、年二回ではストレス発散には至っていないと思うので、個別に話し合ったり、話しやすい環境作りに努めたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己努力した職員に対しては、それなりの評価はしている。休みの日に研修を受けたものには手当を支給し、積極的に資格取得をしている職員には資格手当を支給している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初は本人ではなく家族からの相談がほとんどで、家族からの要望を聞き、その後で本人の意見を聴く事になる。入所初期は担当者が頻繁に声を掛けたり、気付いたことを連絡ノートに綴ったり、ミーティングで話し合うようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族さんが来られた時に出来るだけ話す時間を作るよう心掛けている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた本人の状態を見極め、他のサービスの紹介や必要な支援の提供に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族や、出来るだけ本人にも見学してもらっている。やむを得ずすぐ利用になった場合は、家族に頻繁に来ていただいたり使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。  (外部評価) 本人や家族にホームを見学してもらい、本人の意思を大切にしながら馴染んでもらうよう努めている。また、入居した場合は家族に頻繁に来訪してもらい、安心して生活できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) レクリエーションで密接な関係を築いたり、利用者さんから生活の智恵や工夫を教えていただく機会がある。  (外部評価) 声かけを大切にし、利用者と共に喜び、生きがいを感じられるよう、一人ひとりの特徴を活かした支援をしている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、ホームでの状況報告をお送りし、情報の共有に努めている。行事の際には家族にも参加をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 自室にて本人と家族さんが回りに気を使わず話せるようにしている。来所の際は少しでもお話をしている。		家族によっては、利用者との関係が余り良くない場合、どこまで立ち入って良いのか戸惑う事がある。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 誰でも自由に来所していただいている。美容院や病院などは馴染みのところへお連れしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個別に話を聴いたり、気の合った同士で歌を歌ったり、孤立しないように支援しているつもりである。出来ないことを他の利用者が手伝ったりして支え合うこともある。		人間関係を持つ事を余り好まないタイプの利用者もおられ、そういった方にはプライドを傷付けないよう、又プライバシーにも配慮しつつ遠くから見守るようにしている。必ずしも関わり合いを持つ事が幸せと感じていない方もおられます。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された方からの相談はいつでも受ける用意はある。退所されても、ホームへ自由に遊びに来てお話をし帰られる元利用者もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当者が本人の希望や意向を日々声掛けの中で把握し、アセスメントシートを作成してみんなで検討している。 <hr/> (外部評価) 入居時には利用者それぞれの思いや意向の把握に努め、また、担当者が日頃の会話や表情などから、きめ細かく思いの把握に努めている。スタッフ同士ではユニット会等で十分話し合い検討している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所事前調査、入所後も、本人さんや家族の面会時等を通じて把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 家族・本人から出来るだけ話を聞くようにしている。心身の状況・一日の過ごし方など現状を把握している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の関わりの中で聞く本人や家族の思いを反映させながら、月一回開いているミーティングの中で、担当者を中心にしてカンファレンスを行っている。		
			(外部評価) 入居時には、各人の生活歴、趣味、要望などをきめ細かく聞き取っている。また日々の関わりの中では、利用者の状態や思いを反映させながら、担当者を中心に意見交換を行い、介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に本人さんの状態の変化に応じて計画を作成している。問題が生じた場合家族などとも話し合い、新たな計画を作成している。		
			(外部評価) 利用者一人ひとりの生活状況を観察し、介護計画の見直しを1か月ごとに行い、家族にもその状況を伝えている。更に状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌（個人生活記録）に時間ごと、あるいはエピソードとして記録している。職員の申し送りを確実にし、それ以外でも連絡帳を通じて情報の共有に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診は利用者の馴染みの所を優先してお連れしているが、その他の方は医療連携体制を活かし、利用者の負担となる受診を出来るだけ回避したり、医療処置を受けながらの生活を支援している。		
			(外部評価) 利用者は食材の買出しに出かけたり、墓参りや馴染みの場所にも出かけている。かかりつけの医療機関で診察を受ける場合は職員が同行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 中学生の福祉体験学習や聖カタリナ大学生の実習の受け入れは行っているが、余り積極的ではないかもしれない。	※	ボランティアや地域の方々にもっと協力していただけるよう呼びかけていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。家族と本人の希望により、訪問リハを受けた方もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 北条地区では毎月、地域包括支援センターのリードにより、この地域の福祉サービス事業者が一同に会する機会があり、勉強会や情報交換を行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向により、受診の支援を行っている。  (外部評価) 協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。利用者の殆どは協力医療機関の医師が主治医であり、主治医が月2回往診に訪れる。4名の利用者は馴染みのかかりつけ医の所へ診察にでかけている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 月二回の協力医療機関の訪問診療があり、医師と相談できる機会が確保されている。又、より専門的な内容の場合は協力医療機関で紹介してくれる場合もある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 上記の状況であり、協力医療機関の看護師ともなじみの関係であり相談しやすい。看護職員を配置しており、状況の変化に応じていつでも連絡できる体制が確保されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院への見舞いを頻繁に行い、情報を得たり医師や看護師に相談したりしている。家族とも情報交換や相談をしながら、出来るだけ速やかに退院できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの必要が生じた場合の指針を定め、家族・医師・看護師の意見を交えて話し合い、職員全員で方針を共有している。 (外部評価) 看取り介護に関する指針を作成しており、入居時には利用者、家族に医師が説明をしている。また会議では随時話し合いを持ち、スタッフ、医療機関などで支え合えるよう取り組んでいる。本人・家族から同意があればホームが看取りを行う。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 月二回の訪問診療にて医師との接点も増え、相談しやすい環境にはなっている。急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関とも連携を図っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅での生活習慣・身体状態などの情報交換をし、使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉使いに気をつけたり、その人に合った対応をしたり、人生の先輩であるということを忘れずに声掛けをしている。 (外部評価) 個人情報保護法に関して職員の意識の向上を図り、プライバシーの保護に努めている。職員の言動については日々振り返り、職員同士でお互いの気付きを共有している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんと話し合いながら納得して暮らせるように支援しているつもりである。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合が優先しがちであるが、出来るだけ希望に沿うよう、支援している(日向ぼっこ・散歩・買い物・ドライブ・歌を歌う等) <hr/> (外部評価) 利用者の好みを大切に、近くの神社や海岸の散歩、買い物、料理の下ごしらえ、食後の片付け、洗濯たたみ、新聞の回覧など、一人ひとりのペースや思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけの理美容店に行く事は本人さんの意向に沿って援助している。化粧品などの購入希望では、できるだけ同じものを買ってくるように努めている		利用者によっては毎月又は月に複数回、理美容店に行くことを希望される場合があるが、その様ときは説明をして納得していただく努力をしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 能力的に可能な方にはその様にしている。食事準備・洗濯・掃除に“生きがい”を感じている利用者さんもおられ、本人さんの意向どおりにやってもらっており、職員も助かっている。 <hr/> (外部評価) 野菜を多く摂れる献立を立て、利用者に喜ばれている。食事介護の必要な利用者には傍らに座り、優しく声をかけをしながら、楽しく食事を摂っている。利用者の中にはエプロンを着け、食前・食後の手伝いを行っている利用者もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ビール好きな女性利用者がおられ、量的にはたくさん飲まれる事もないため制限もしていない。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 時間を見計らって、声掛け・トイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望通りには出来ていない。 <hr/> (外部評価) 週に3回は入浴を行っている。基本的には2階ユニットは午前中の入浴を、1階ユニットは午後に入浴を行っている。ただし本人の希望を最大限に大切にしている。入浴をどうしても嫌う時などには清拭等での対応もしている。		現在は、曜日・時間帯はあらかじめ決めているが、入浴のタイミングは個人の希望に合わせている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 朝、目覚めにくい人の朝食は、本人さんを無理に起こすのではなく、起きて来られた時に食事ができるように配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の皆さん全員への対応は難しいが、身体の元気な方で特に役割を希望される方には配慮している。(洗濯・食事準備・歌・ドライブ等) (外部評価) 食前・食後の手伝い、洗濯物たたみ、新聞の回覧、花の水やりを行い、近くの神社や海岸の散歩を楽しんでいる。またホームの車で花見、公園、奥道後などにも出かけて楽しんでいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一応、事務所金庫にてお預かりしているが、本人さんの希望がある時に、その都度お渡ししている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に添って全員の対応は出来かねるが、可能な範囲で買い物・美容室・散歩・ドライブなどの支援はしている。 (外部評価) 毎日利用者一人ひとりの希望に沿って買い物、散歩、ドライブ、美容室などにも出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の方と美術館や外食に出かけたりしている。本人・家族の希望があればいつでも連絡を取り支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話等の希望があればホームの電話を使用し、お話しする機会を作っている。切手を購入し、友人や家族へ手紙を出される方の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 笑顔であいさつし、訪問しやすい雰囲気作りをしている。お茶をお出しして、居室で気兼ねなく話が出るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。点滴が必要になったときなどは、抜かないように職員か家族が側に付いている。どうしても必要になった場合は、家族さんにも説明をした上で同意を得ることにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(外部評価) 玄関にカギを掛けるのはPM8：00以降にしている。外出したい雰囲気を察知して、声掛けして気をそらせたり、一緒に少し出かけてたりしている。  (外部評価) 昼間は玄関に施錠していない。センサーで外出者を確認し、またそれぞれの外出傾向を職員が把握して、利用者の安全面には十分注意を払っている。	※	ホームの前が国道で交通量が多い。万一の事故防止のため、近隣者と連携を深め、一層の理解・協力が得られるよう努めることが望まれる。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 記録簿は利用者の見える場所で行い、所在や様子を把握している。夜間は2時間ごとに利用者の確認をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて危険なものは保管させていただき、必要なときは見守りをしながら使用していただく等の配慮している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて、事故を未然に防ぐための努力をしている。転倒や誤嚥などが考えられる利用者にはそれぞれ防止策を講じている。ヒヤリハットを記録し、事故原因の予防対策を検討している。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 過去に消防職員による応急手当の勉強会・実技を行ったり、資料を配布したが、最近行っていない。	※	再度、消防署の協力を得て、救急講習を行いたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年二回の消防訓練（消火・避難・通報）を実施している。  (外部評価) 年に2回、夜間を想定した消防訓練（消火、避難、通報）を行い、その内1回は消防署の指導を受けて、避難経路の確認・避難介助・消火器設置場所の確認・119番通報などの訓練を行っている。	※	運営推進会議などを通して地域とより連携を深め、地域の人を交えて消火、避難等の訓練を実施することが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の面会時や、その他でも状態が変わった時には、管理者から連絡をしている。抑圧感のない暮らしの提供の一環として、威圧的な態度や言葉掛けを慎むよう努力している。		
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴前のバイタルチェック、食事の摂取量、本人の体調の変化や異変などを記録している。全職員が把握し、治療が必要と判断したら速やかに受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容表・処方箋をファイルにして保管し、薬の内容を理解するように努力している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄状況もチェックしており、それによって便秘になる恐れがある場合は水分摂取量や献立に工夫をしている。食物繊維や乳製品等を取れるように気を付けている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 上手に歯磨きの出来ない人はもちろん介助をしているが、それに加えてマヒ等により出来ない人には口腔ケア専用のブラシ（ハミングッド）を使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重の変化、身体の状態（腎機能低下・糖尿病 等）などに気をつけ、個々に合った食事量・バランスを考えている。  (外部評価) 体重の変化、糖尿病などには十分気をつけ、それぞれに合った食事量、バランスに十分配慮している。水分摂取には配慮して、毎食、汁物を多く摂るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し実行している。特にインフルエンザ予防については、流行前後を含んで来所者にもホームで用意したマスクを使用していただいている。手洗い・消毒はかなりこまめに行いペーパータオルを使用している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は2日毎に購入し、生ものは必ず当日に使用。一つ一つ購入日を記入し、賞味期限切れには注意している。まな板・ふきん等は頻繁に消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関や庭には花を植えたり、その花を見たい利用者さんのためにベンチを設置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 浴室以外は毎朝きちんと掃除をし、気持ちよく過ごしていただいている。リビングにいと食事の匂いや食器の音などの生活感を感じることができる。部屋の飾りつけにて季節感を出している。 (外部評価) 共用広間はレースのカーテンを使用し、日ざしを調整できる。居間は広く、ソファを置き、ゆったりと寛げるよう工夫をしている。また七夕の笹飾りは季節感がある。	※	居間に時計を設置しているが、文字盤が見にくいので、文字盤の見やすい時計に替える等の対応を望む。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファの位置や食堂の席など、皆で話せるよう、また、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族にも協力していただき、家で使っていた家具や日用品を持参され、家と変わりなく過ごせる空間作りをしている。 (外部評価) 居室は利用者それぞれの思い出の家具・写真・時計などを持ち込み、また仏壇を置いている部屋もあり、思い思いに落ちついた生活が送れるよう、工夫をしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 特に夏・冬に関しては、入居者の体調に気遣い温度調節・換気をしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に暮らせるよう、段差のない空間・必要な場所への手すり設置・ソファの設置場所等に配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとり、分かること・出来ることをして頂き、自立して暮らせるように工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 天気が良い日などは頻繁に庭へ出て、歌を歌ったり、日向ぼっこをしたりして楽しまれている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ①ほぼ全ての利用者の 評価) ②利用者の2/3くらいの 3利用者の1/3くらいの 4ほとんど掴んでいない	利用者の皆さんとの会話を通じて理解しているつもりではあるが、全てではないかもしれない。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ①毎日ある 評価) ②数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない	“お茶、おやつ、食事”を一緒にとっており、世間話などをよくしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	職員が利用者の皆さんのペースに合わせるように心掛けている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	一人ひとりに合った対応をしていくと生き生きとされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	利用者の皆さん全てが満足のいくように行うのは、なかなか困難である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	高齢になって来ると、いかなる方法を講じても不安はぬぐいされないと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	努力はしているが、思いが叶えられない事もあると思う。全員が安心して暮らせる事は難しいと思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ①ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと 3家族の1/3くらいと 4ほとんどできていない	表面上だけかもしれないが、面会に来られたご家族から不満げな言葉を聞いたことはない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ①ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 ③たまに 4ほとんどない	平均して月に一回くらい。多い方、少ない方といろいろである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	その様に実感している。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	待遇面で、もう少しなんとかならないかと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	人である以上、満足することはなかなかないと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	大きな問題もなく、おおむね満足されていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

外出の機会や、屋外へと、気分転換を図る機会をもとうと努力している。

(急に計画しても、スタッフがいつでも使用できる車も用意してくれている)

スタッフ中心ではなく、出来るだけ利用者さんのペースで過ごしていただこうと努力している。

利用者の体調に合わせた食事にはかなり気を遣っている。

スタッフは全員正社員で、最近では職員の異動がなく、それぞれが責任を持って協力しながら馴染みの関係を築いている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 山内 栄樹

評価完了日 H.19 年 6 月 7日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ノーマライゼーションの考え方を踏まえて、地域の中でその人らしい暮らしが出来るように援助することを掲げている。  (外部評価) 文章化した従来からの理念は変更していないが、地域密着型サービスとして地域との関係性を一層重視し、地域で安心した暮らしができるようなケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念の五か条を各フロアーの職員の目に付くところに貼って、常に頭にはあり、心掛けているものの出来ない時もある。  (外部評価) 管理者と職員は、ユニット会などを通して理念に関して常に話し合いを持ちながら、小学校や地区公民館の運動会に参加するなど、地域での生活の中で交流を増やし、地域で安心した生活ができるよう努めている。	※	初心に戻り、反省も含めて理念についてスタッフと管理者で話し合う機会がもっと欲しい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念をアピールする事はないが、スタッフと利用者のみなさんとの交流姿勢(会話する時の声のトーン・態度等)を見て感じていただくしかないと思う。		禁止句の使用禁止、強圧的な態度を取らない様に日々の積み重ねが大切だと思っており、その様に努力していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者さんと散歩途中などに出会った人と気軽に挨拶を交わし、地域の人から話しかけられることも増えている様に思う。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の中・高校生の受け入れをし、運動会の参加、盆踊りなどに出かけて行き、祭りは毎年ホームに神輿が来てくれる。お茶会や寿司パーティーなどのボランティアが来てくださる。  (外部評価) 自治会に加入し、地区の調整会に月1回出席し、情報交換を行っている。中学校2校の体験学習や大学の実習生も受け入れている。地方祭には御輿が入ってくる。地域の寿司屋さんがホームに出張サービスに訪れ、利用者は楽しんでいる。	※	老人会の参加などで出かけるには、一人の利用者に一人のスタッフが付かなければならず、なかなか難しいところがある。出来るだけホームへお越しいただけるよう声掛けをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 利用者の皆さんの事で精一杯であり、地域の高齢者の事までは余裕がない。力不足を痛感している。		利用者の年齢も高くなり、身体状況も下降傾向の人が多くなってきてはいるが、その様な状況の中でも何が残されているかを探り前向きな対応をしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自分たちのケアのあり方を振り返る良い機会だと受け止めている。自己評価がケアプランに生かされていると思う。 <hr/> (外部評価) 職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、その評価を全員が確認し、十分話し合ってケアの向上に努めている。	※	外部評価の結果を見て、全員で話し合う機会を持ちたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではホームの状況の報告や外部評価の報告などを行っている。お花見の家族参加など、家族からの要望などもお聞きし実践している。 <hr/> (外部評価) 会議は2か月に1回開催しており、防火訓練、感染症対策等ホームの現状などに関する議題を話し合っている。話し合いの中でホームの前に横断歩道が設けられた。家族会はないが、家族代表よりホーム行事の前に家族が話し合う機会を持つことの提案があり、敬老会の前にその機会が設けられた。	※	今後はさらに地域の情報を得、ホームへの理解・協力を深めるために、消防署、交番、近隣等からも参加してもらうことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が北条地区のサービス調整会に毎月参加し、必要な情報を流してくれている。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議には市から出席があり、また月1度開催される地区調整会には市、市社協からの出席もあり、常に連携をとり、ケアに活かしている。また地域包括支援センターによる勉強会にも参加し、協力を得られるように努めている。		毎月、北条地区では包括支援センターのリードによる調整会や勉強会があり、それに参加し、情報収集に努めている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 話し合いはまだ持っていないが、管理者はどういう事業なのかの情報はスタッフに資料提供をしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 上記と同様であるが、日々の援助の中で強圧的な言動等も虐待である事の理解が頭では分かっているが時折みうけられる。	※	日々の援助の中でスタッフの価値観や都合が優先されると虐待に繋がりやすいことを意識付けしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明後にサービス開始に当たっての同意書もいただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当者を決め接する機会を多くし、話しやすい環境作りに努めている。管理者はそれぞれの入居者と個別に触れ合う機会を持ち、情報収集に努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、請求書送付に合わせて近況報告・写真・レシートを付けた小遣い帳等を送付している。  (外部評価) 利用者それぞれの金銭出納帳があり、1～2万円程度預かっている。毎月請求書を送付する際に金銭出納帳、ホーム便り、写真等を同封して暮らしぶりを定期的に知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 今のところ不満や苦情はないが、御意見箱の設置をし、運営推進会議に家族代表者に入ってもらっている。担当スタッフを決め、お互いに相談しやすい雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 意見箱をホームの玄関に設置している。利用案内時にもホーム内での相談責任者、第三者機関の相談窓口を明示し、十分説明を行っている。また運営推進会議では家族の代表者も出席し、意見を述べている。		運営推進委員への家族代表者の員数を増やすか、または定期的に交替する等の方法にて、出来るだけ多くの家族さんに参加していただきたいと思っている。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関するスタッフの意見を聞く機会は積極的に取り組んではないが、日々の生活の中で出てくる要望で可能な場合は改善している。		現状で良いと思っている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニットには7名の職員を配置しており、スタッフから見れば十分でないかもしれないが、経営的には職員の確保に努力しているつもりである。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 配慮はしている。 (実状では開設一年半ほどは離職もあったが、それ以降は殆どない) <hr/> (外部評価) 馴染みの関係の大切さを職員間で十分認識しており、職員の意見を聞きながら、異動や離職を最小限にとどめるよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者・管理者はその計画でいるのだが、研修・資格取得等を勧めても余り反応がない。必要性をもっと具体的に話す必要があるかもしれない。 <hr/> (外部評価) 半年間の研修計画予定表を作成し、全職員に周知し、職員から参加希望を聞き取り、極力参加を勧めている。	※	働きながらのトレーニングは思いつき難いのは理解できるが、それでも実際には努力している人も他の施設には居るのだということを理解し、努力を期待していきたい。強制的に受講させたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は地域のサービス調整会には積極的に参加し、情報交換等に努めている。職員はなかなかそういう機会がないので、相互訪問などのネットワークがもっと出来れば良いと思う。 <hr/> (外部評価) 地区調整会の中に地域密着型部会が設立され、他のホーム・介護施設などの職員も出席しており、共に「サービスの質の向上」(平等と公平)等について学習し、ケアの向上に繋げている。	※	グループホーム連絡協議会などが主催している相互研修事業へ参加させ、サービス向上に努めたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年二回(夏はビアガーデン・冬は忘年会)の機会を設けている。出来るだけ現場の声を聴き、ストレスの原因を把握するように努めている。しかし、現実離れた要求も多いのも事実である。	※	親睦会は継続していく予定であるが、年二回ではストレス発散には至っていないと思うので、個別に話し合ったり、話しやすい環境作りに努めたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己努力した職員に対しては、それなりの評価はしている。休みの日に研修を受けたものには手当を支給し、積極的に資格取得をしている職員には資格手当を支給している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 時間的には余裕はあるはずであるが、職員側の反省点として、時間を有効に使う努力が出来ていない。		利用者みなさんと話す機会を作る事こそがまず信頼関係を築いていく第一歩である事を認識し、他の業務に逃げない努力をしていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の来所の機会を捉えて、職員からも話し掛けていく努力はしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた本人の状態を見極め、他のサービスの紹介や必要な支援の提供に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) まず家族や、出来るだけ本人にも見学してもらっている。やむを得ずすぐ利用になった場合は、家族に頻繁に来ていただくようお願いし、利用者さんの様子を見ながらサービスを行っている。 <hr/> (外部評価) 本人や家族にホームを見学してもらい、本人の意思を大切にしながら馴染んでもらうよう努めている。また、入居した場合は家族に頻繁に来訪してもらい、安心して生活できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) スタッフが利用者さんの隣に座り会話をしながらレクリエーションや食事をしているが、時として職員の都合が優先されている場合があるかもしれない。 <hr/> (外部評価) 声かけを大切に、利用者と共に喜び、生きがいを感じられるよう、一人ひとりの特徴を活かした支援をしている。		利用者みなさんの言動から“気付き”の介護・援助で出来るよう努力をしていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ほとんどの家族の方は訪問時間が少なく、ともに支えあうという関係とはなっていない。	※	家族に出来るだけ出向いてもらい、長く話す時間を持ってもらえるようこちらから声掛けをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の面会時に希望を尋ねたり、本人さんの様子を伝えたりと、話す機会を持つように努め、必要な物などあればお願いしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 実際にその場所へ行く事はできないが、これまで住んでいた場所や出会った人の話を聞いたりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ゲームに参加してもらったり、助け合ったりと一人ひとりが孤立せず、共通に出来ることなどをしてもらっている。“お茶”の時間には一緒に歌を楽しむこともある。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 職員としては毎日の業務もあり、その様な関係を継続していくことは困難であるが、管理者はその様な配慮をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの側へ行き、話しかけて要望を聞き、時間が取れば希望に沿うよう努めているが、十分ではないかもしれない。  (外部評価) 入居時には利用者それぞれの思いや意向の把握に努め、また、担当者が日頃の会話や表情などから、きめ細かく思いの把握に努めている。スタッフ同士ではユニット会等で十分話し合い検討している。	※	もっと利用者の皆さんと話す時間を増やしていきたい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所事前調査、入所後も、本人さんや家族の面会時等を通じて把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 家族・本人から出来るだけ話を聞くようにしている。心身の状況・一日の過ごし方など現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方からその都度意見を聞く事は難しいが、面会時に聞いたことや利用者の方の言動から思い図って作成をし、家族の方には後日見ていただいている。 (外部評価) 入居時には、各人の生活歴、趣味、要望などをきめ細かく聞き取っている。また日々の関わりの中では、利用者の状態や思いを反映させながら、担当者を中心に意見交換を行い、介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 緊急を要する場合は、とりあえず電話で家族に確認をし、計画を作成している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活状況を観察し、介護計画の見直しを1か月ごとに行い、家族にもその状況を伝えている。更に状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌にケアプランを入れ、いつでも見られるようにし、実践できるよう心掛けている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診は利用者の馴染みの所を優先してお連れしているが、その他の方は医療連携体制を活かし、利用者の負担となる受診を出来るだけ回避したり、医療処置を受けながらの生活を支援している。 (外部評価) 利用者は食材の買出しに出かけたり、墓参りや馴染みの場所にも出かけている。かかりつけの医療機関で診察を受ける場合は職員が同行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署へは消防訓練での指導を、警察署へは安全協会へ働きかけていただき、ホームの前に横断歩道を設置していただいた経緯もある。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域サービス調整会では、当事業所のケアマネジャー（管理者）が連携をしている。本人の体調に合わせて、訪問理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 北条地区では毎月、地域包括支援センターのリードにより、この地域の福祉サービス事業者が一同に会する機会があり、勉強会や情報交換を行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) その様に努力しており、利用者のみなさんも家族もある程度は満足しておられると思う。  (外部評価) 協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。利用者の殆どは協力医療機関の医師が主治医であり、主治医が月2回往診に訪れる。4名の利用者は馴染みのかかりつけ医の所へ診察にでかけている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) その様にしている。協力医療機関以外に近くに専門病院もあり、過去には家族さんに相談の上受診したこともある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の訪問診療（月2回）もあり、看護師とも密に連絡を取り合っている。（協力医療機関には八割の方が受診している）他の医療機関の方も定期的な受診援助を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院への見舞いを頻繁に行い、情報を得たり医師や看護師に相談したりしている。家族とも情報交換や相談をしながら、出来るだけ速やかに退院できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの必要が生じた場合の指針を定め、家族・医師・看護師の意見を交えて話し合い、職員全員で方針を共有している。 (外部評価) 看取り介護に関する指針を作成しており、入居時には利用者、家族に医師が説明をしている。また会議では随時話し合いを持ち、スタッフ、医療機関などで支え合えるよう取り組んでいる。本人・家族から同意があればホームが看取りを行う。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 出来ることと出来ないことの線引きが難しいが、かかりつけ医や看護師と相談しながらチームとしての支援に取り組んでいると思う。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅での生活習慣・身体状態などの情報交換をし、使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 気をつけているものの、慣れ合いで時に傷つけているときがあるかもしれない。 (外部評価) 個人情報保護法に関して職員の意識の向上を図り、プライバシーの保護に努めている。職員の言動については日々振り返り、職員同士でお互いの気付きを共有している。	※	気を付けているつもりであるが、時々苛立ったような言葉が出ることもある。ミーティングなどで意識向上を図るようにしたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんに話しかけることで引き出す努力はしているが、なかなか難しい。自分で決めてもらう場面は少ないと思う。	※	複数の選択肢を提案して、それぞれが決めてもらう場面を作りたいと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いはしていないが、全員の希望に沿っているかといえれば分からない。  (外部評価) 利用者の好みを大切に、近くの神社や海岸の散歩、買い物、料理の下ごしらえ、食後の片付け、洗濯たため、新聞の回覧など、一人ひとりのペースや思いに配慮しながら柔軟に対応している。	※	“利用者主体”が大切なことであるし、そうあるべきだと理解しているつもりではあるが、今後も重点目標の一つと考えて対応していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 化粧品を購入して、おしゃれが出来るように支援している。元気な方は近くの美容院へ行き、歩行の困難な方は来てもらっている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が全てをやってしまいがちであるが、野菜の皮むきなど出来る範囲でしてもらっている。片付けも出来る人だけしてもらっている。  (外部評価) 野菜を多く摂れる献立を立て、利用者に喜ばれている。食事介護の必要な利用者には傍らに座り、優しく声をかけながら、楽しく食事を摂っている。利用者の中にはエプロンを着け、食前・食後の手伝いを行っている利用者もいる。	※	職員主体ではなく、利用者主体の考え方が行動面にもっと表れるよう努力していきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、焼酎を一日に一合弱の量をたしなまれる方がおられ、飲みすぎには気を配るが禁止はしていない。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を最優先として援助している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合わせる事は出来ない。(実際問題として、困難であると思う)入浴を拒む人には、声掛けや対応の工夫をしている。  (外部評価) 週に3回は入浴を行っている。基本的には2階ユニットは午前中に入浴を、1階ユニットは午後に入浴を行っている。ただし本人の希望を最大限に大切にしている。入浴をどうしても嫌う時などには清拭等での対応もしている。	※	職員のローテーションで夜間入浴は難しいが、昼間の入浴は午前も午後もしている。ゆっくり入ってもらえるようにスタッフの介助にゆとりを持つようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない利用者については、ゲームや午後の散歩などを取り入れ、高齢の方は昼寝などで休息してもらうようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 十分な対応は出来ていないが、能力的に可能と思われること(掃除・洗濯物たたみ・水遣り等)をお願いしている。 <hr/> (外部評価) 食前・食後の手伝い、洗濯物たたみ、新聞の回覧、花の水やりを行い、近くの神社や海岸の散歩を楽しんでいる。またホームの車で花見、公園、奥道後などにも出かけて楽しんでいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の出来る方には所持してもらってはいるが、認知症の進行度合いに応じて対応している。外出時には小遣いで欲しい物を買われる(スタッフで管理しながら)		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添ってとはいかないが、ホーム外の雰囲気に触れる事は心掛けている。 <hr/> (外部評価) 毎日利用者一人ひとりの希望に沿って買い物、散歩、ドライブ、美容室などにも出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿うのは難しいが、四季折々に職員が企画を立て、ドライブや外食・買い物などに出かけている。今年のお花見には、初めての家族さんにも参加を試みた。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望通りにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 夜以外なら、都合のいい時間帯にいつでも訪ねていただけるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) どうしても必要な場合には、家族さんに説明の上（必要な理由・期間・時間帯）同意をいただく様に行っているが、基本的には身体拘束は禁止している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜以外はカギを掛けないようにしている。外出したがる時には、とりあえず職員が付いて散歩し気を紛らわせたり、声掛けによって他の方向へ気持ちを向けさせたりしている。 (外部評価) 昼間は玄関に施錠していない。センサーで外出者を確認し、またそれぞれの外出傾向を職員が把握して、利用者の安全面には十分注意を払っている。	※	ホームの前が国道で交通量が多い。万一の事故防止のため、近隣者と連携を深め、一層の理解・協力が得られるよう努めることが望まれる。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間・日中は定期的に見回りをし、安全な生活を心掛けている。フロアーはかならず職員が見守れる状態になるよう気を付けている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて取り組んでいると思う。持ち込み物で危険なものは家族の了解のもと預かったり、返したりしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録をし、今後の対応策は検討している。常に職員が利用者さんから目を離さないよう業務を行っている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 過去に消防職員による応急手当の勉強会・実技を行ったり、資料を配布したが、最近は行っていない。	※	再度、消防署の協力を得て、救急講習を行いたい。




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年二回の消防訓練（消火・避難・通報）を実施している。  (外部評価) 年に2回、夜間を想定した消防訓練（消火、避難、通報）を行い、その内1回は消防署の指導を受けて、避難経路の確認・避難介助・消火器設置場所の確認・119番通報などの訓練を行っている。	※	運営推進会議などを通して地域とより連携を深め、地域の人を交えて消火、避難等の訓練を実施することが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の面会時や、その他でも状態が変わった時には、管理者から連絡をしている。抑圧感のない暮らしの提供の一環として、威圧的な態度や言葉掛けを慎むよう努力している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェック・食事摂取量・体調変化の記録を行い、異変の発見に努力している。しぐさ・顔色の変化が少しでも見られたら職員同士相談し合い対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬は職員が本人のものか、服用時期は正しいか、ちゃんと服用されたかをその都度確認している。投薬内容表・処方箋をファイルにしていつでも見れるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 自然便がどうしても困難な方には便秘薬を使用してもらうが、出来るだけ繊維の多い野菜や水分摂取・体操・散歩で適度に身体を動かしていただくよう取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後・声掛け誘導して口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人に合った食事量や大きさ・むせこみのある方にはとろみを付ける等、気をつけて対応している。  (外部評価) 体重の変化、糖尿病などには十分気をつけ、それぞれに合った食事量、バランスに十分配慮している。水分摂取には配慮して、毎食、汁物を多く摂るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種は全員受けている（利用者は家族の同意を得ている）。 手洗いを確実にし、ペーパータオルの使用、外来者にはマスク着用等を協力していただいている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器類は食洗器による洗浄・乾燥を、食材については消費期限の確認、買出しは一日置きに行う等、新鮮な食材使用を心掛けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花を植えたり生けたりと、やさしい雰囲気作りをしていると思っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テーブルに花を飾ったり、壁に手作りの物を飾ったり、食事も季節感を感じてもらえるような行事食も提供している。 (外部評価) 共用広間はレースのカーテンを使用し、日ざしを調整できる。居間は広く、ソファを置き、ゆったりと寛げるよう工夫をしている。また七夕の笹飾りは季節感がある。	※	利用者参加の手作り品をもっと取り入れていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや食事の際の食堂のテーブル席は一応は決めているが、空いている時には自由に使ってもらっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 持ち込み品の制限は、危険な物以外は自由にしてもらっている。 (外部評価) 居室は利用者それぞれの思い出の家具・写真・時計などを持ち込み、また仏壇を置いている部屋もあり、思い思いに落ちついた生活を送れるよう、工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日、空気の入れ替えを行うとともに、季節的には夏場の冷房は外気温と大きく相違しないよう、冬場の暖房（床暖房）もその日の気温に応じて調整をしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 床はコルク材でバリアフリーにしている。手すりも要所に設置している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱を招く恐れのある方には、名前を大きめに書いたり、印を付ける等の工夫をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 構造的にベランダは狭いため、玄関前駐車場を利用し、イスやテーブルを置いて過ごしたり、昼食やおやつを庭で食べたりする機会を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ②利用者の2/3くらいの評価) ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	こうありたいであろうという事を察する努力はしているが、不可能な事もあり、利用者さんにはある程度の不満はあるだろうと思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ①毎日ある評価) ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	おやつ時、ゆったりと過ごす事が出来、会話もはずむ。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①ほぼ全ての利用者が評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	自分の時間を過ごせている人は三分の一位で、他の人はソファに座りTVを観ているだけの人が多いのだが、それも各利用者さんのペースのようである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己 ①ほぼ全ての利用者が評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	時間的に余裕が出来た時など、一人ひとりに合った対応をするとやはり生き生きとされている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己 ①ほぼ全ての利用者が評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者の希望により、即応する事はなかなか困難である。どうしてもある程度人数が(職員も含めて)まとまってでないと事故防止の観点からもリスクが大きい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	協力病院の訪問診療、その他“かかりつけ医”への受診も一回/2Wのペースで支援しており、不安は少ないと思うが、すべての利用者が不安なく・・・は不可能に近いと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ①ほぼ全ての利用者が評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	認知症の進行とともに、要望(スタッフ側が思い計ったことも含めて)が複雑化しており、自信のないところではあるが、帰宅願望の顕著な方はいない。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ①ほぼ全ての家族と評価) ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	来所して下さる家族からはよく聴いているが、なかなか面会に来られることのない家族からは聞く機会が少なく、全ての家族との信頼関係が出来ているかどうかはわからない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ①ほぼ毎日のように評価) ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	平均して月に一回くらい。外との交流は少ないかもしれない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	まだよく分からないが、外部の方にホームの内容を知ってもらいながら、少しずつは理解者が増えてきていると思う。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんを支援する方法として、意見の相違があるため、思うように援助が出来ない時もある。上司とスタッフのコミュニケーション不足があるかもしれない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族と離れ、長年住みなれた場所から移って来られているため、集団生活で限られた空間の生活で“満足”とはいかないと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	開設以来、苦情らしき苦情（遠慮されているのかもしれないが）はない。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

## (自己評価)

バスハイク（年に3～4回）、そうめん流し、敬老会、外食、有償ボランティアによる寿司の昼食会等の行事を実施している。  
 スタッフの意見で、いつでも使用できる7人乗り車を購入したので、外出の機会や屋外へ出て気分転換の機会を多くもとうと努力している。  
 食事をおいしいと感じていただくよう、季節の食材をメニューに入れたり、暦の年中行事にあわせたメニューを頻繁に取り入れている。  
 年2回は1，2F合同で家族さんにも参加していただき、スタッフや利用者さんと一緒に食事ができるようにしている。  
 楽しみの一つであるお食事は、ほとんど手作り、おいしくて自慢である。手間を掛けすぎているかもしれないが、健康が維持でき、みなさんお元気です。  
 健康管理や事故防止のために、スタッフは大変努力している。  
 ほとんどのスタッフが正社員で、異動がほとんどなく、馴染みの関係が築けている。